



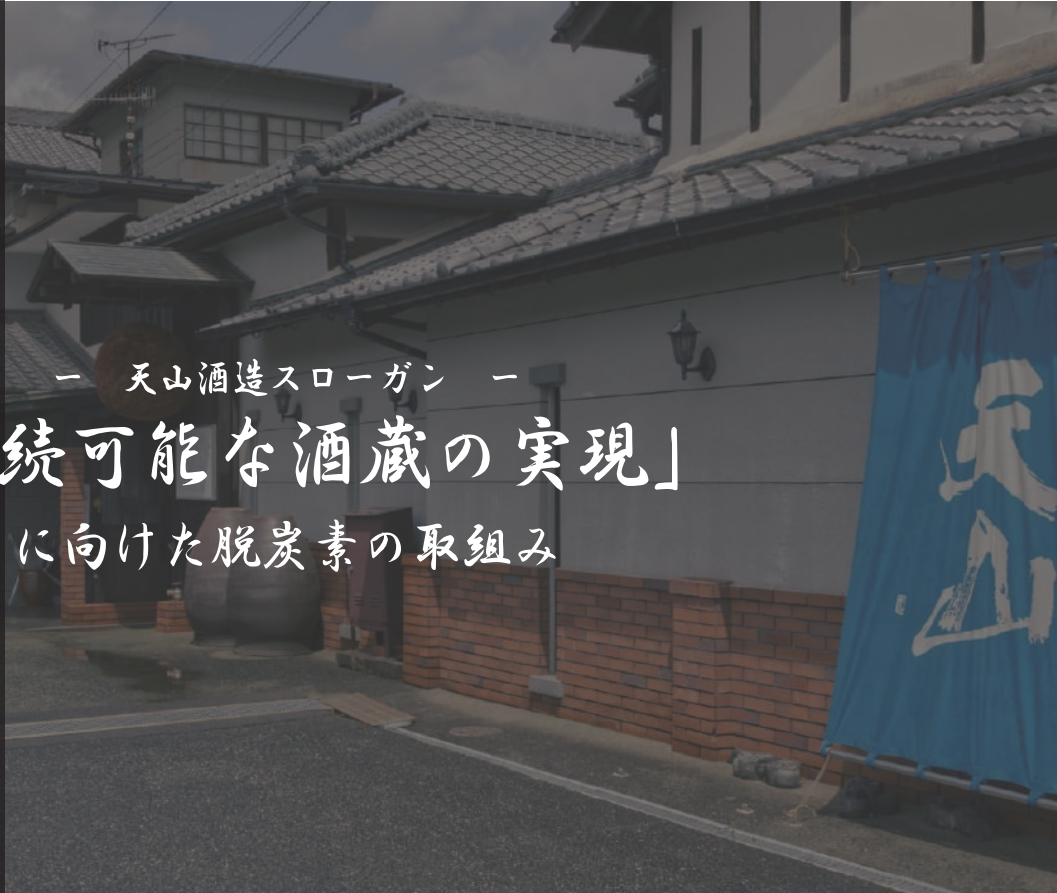
脱炭素の取組み



— 天山酒造スローガン —

「持続可能な酒蔵の実現」

に向けた脱炭素の取組み

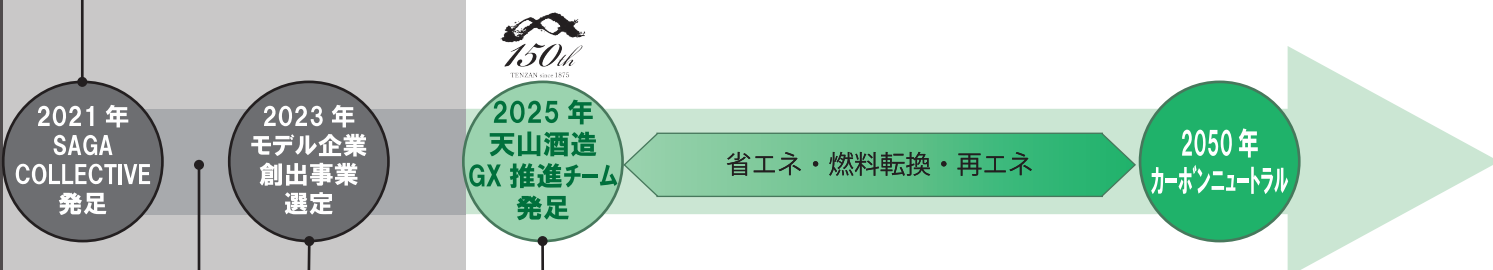


「伝統」×「GX*」の両立にむけたロードマップ

佐賀県を代表する事業者による組合



*GXとは「Green Transformation(グリーントランスフォーメーション)」の略称で、温室効果ガスの削減と経済発展を両立させるための社会的変革を意味します。従来の化石燃料に依存した社会・産業の仕組みを、再生可能エネルギーを基盤とする持続可能な構造へと切り替え、2050年までにカーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる状態)の実現を目指す取り組みです。



天山酒造 GX 推進チーム

総合プロデュース	計画・設計	施工	施工	検証
施工(設備)	(脱炭素IT)	(建築)	(再生可能エネルギー)	

株式会社 TAJIMA

株式会社 LECLASS INNOVATION

株式会社 NAKASHIMA

株式会社 バイオテックス

佐賀大学 SAGA UNIVERSITY

*SAGA サンライズパークに導入した再生可能エネルギーの水平展開を目的としたチーム。

日本と世界の動向を踏まえた脱炭素の取組み

世界的に脱炭素の機運が高まるなか、日本でも「2030年度の温室効果ガス46%削減」、「2050年までのカーボンニュートラルの実現」を掲げ、大企業を中心に脱炭素経営への取組みが急速に広がっています。

こういった情勢を受け、天山酒造においても「持続可能な酒蔵の実現」をスローガンに掲げています。我々が加盟している「SAGA COLLECTIVE」で初めてCO2排出量を算定した際に、参画企業の中でGHG排出量が最も多かったことに驚き、責任を感じました。

また、世界の動向としては、海外における輸入品への規制「国境炭素調整」があげられます。EUでは2026年1月から国境炭素調整を本格適用予定で、対策不十分な商品は流通しなくなります。こうしたEUの事例を参考に、他国が国境炭素調整の導入を検討する可能性は十分にあります。

海外では日本食ブーム等を背景に、輸出量は増加傾向にあります。佐賀の日本酒「佐賀酒」は海外でも評価を高めており、天山酒造はその筆頭格としてアジアや米欧など25カ国・地域に販路を持っており、対応の必要が生じてきます。

こういった背景も踏まえて、今以上にスピード感を持って脱炭素経営に率先して取組む決意を新たにしました。

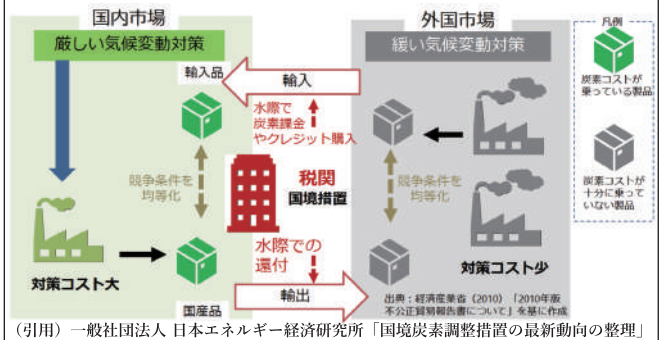
日本の動向と天山酒造

日本の目標	
2030年	CO2排出量46%削減(2013年度比)
2050年	カーボンニュートラル

海外のワイナリー視察	
環境にやさしい取組みへの姿勢やスピード感	

天山酒造	
スローガン	持続可能な酒蔵の実現
意気込み	今まで以上にスピード感を持って取組む

世界の動向



昨年度(2024年度)までの取組み

脱炭素経営の実現に向け、2024年度までに取組みの方向性と基盤を整理しました。まず、組織全体で取り組む意思を表明し、CO2排出量の現状を見える化しました。

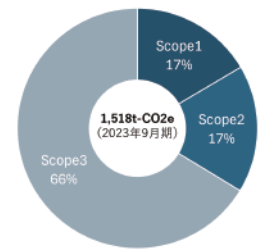
また、社内外への情報発信方針を定め、自社のストーリーを整理したうえで、ステークホルダーごとの留意点を踏まえた最適な発信方法を検討し、透明性と信頼性の高い情報開示を目指しています。

天山酒造は今後も脱炭素経営の取組みを、自社およびSAGA COLLECTIVEを通じて発信していきます。酒造メーカーの中でも脱炭素への取組みに早くから着手してきた経験や実績を、いずれは同業他社へも広げていきたいと考えております。

天山酒造のCO2排出量

・天山酒造が自社で排出するCO2は約512t。酒米由来のCO2排出量は約553t。

Scope	項目	排出量 (t)
Scope1	A重油 蒸気ボイラー	250.8
	灯油 高圧洗浄機	234.4
	LPGガス 事務所(給湯)	1.2
	ガソリン 社用車	1.3
	軽油 社用車	10.3
Scope2	電気(高圧電力) 製造場・瓶詰め施設	3.5
	電気(低圧電力) 冷蔵庫	223.9
	電気(設置電灯C) 照明	29.2
	電気(設置電灯B) 事務所	3.1
Scope3	酒米	4.7
	上水道、簡易水道	1,007.0
	船・資材	552.9
	輸送、配送(上流)	6.0
	事業から出る廃棄物(焼却事業)	393.1
	出張	9.1
	雇用の通勤	1.4
	輸送、配送(下流)	7.8
	雇用者の通勤	9.7
輸送、配送(下流)	26.9	



天山酒造の脱炭素化推進

今年度からは「省エネ推進」「燃料転換」「再エネ導入(地中熱・井水熱・太陽光発電)」を段階的に進めます。

こうした取り組みを通じ、地域と共生した持続可能な酒造りを実現するとともに、佐賀から全国・世界へ積極的に発信します。

「伝統」と「GX」の両立にむけた持続可能な酒蔵の実現



省エネ・燃料転換・再エネによる製造工程のカーボンニュートラル化



持続可能な酒蔵の実現



佐賀から全国・世界へ発信